

「学术交流の重要性と 地域における知識共有」

大会開催委員長 山谷 裕哉



近畿支部会員の皆様、いつもご愛読いただき誠にありがとうございます。2023年度より大会開催委員長を務めさせていただいております。奈良県立医科大学附属病院の山谷裕哉（やまたに ゆうや）と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

私が担当する大会開催委員会の業務内容について、詳しくご存じない方も多いかと思しますので簡単にご説明させていただきます。当委員会の主な業務は、学術大会の大会長の推薦や学術大会実行委員会と連携し、学術大会の運営が円滑に行われるようにサポートを行うことです。我々は、まさに縁の下の力持ちのような存在です。あまり学術大会に参加したことがない方向けに少し紹介したいと思います。学術大会は学会にとって重要なイベントであり、会員の皆様が最新の研究成果を共有し、議論を深める貴重な機会です。放射線技術は日々進化しており、新しい技術や知見が次々と生まれています。これらを迅速に取り入れ、臨床現場での応用を図るためには、学術大会のような場が不可欠です。学術大会では、様々な分野の専門家が一堂に会し、最新の研究成果や技術について発表します。これにより、異なる視点からの意見やアドバイスを得ることができ、自身の研究や業務に新たな視点を取り入れることが可能となります。また、同じ志を持つ仲間とのネットワーキングの場としても重要です。新たな協力関係を築き、共同研究の機会を得ることができるのも学術大会の大きな魅力です。また、会員同士の交流や新たなアイデアの創出は、個々の知識や経験を超えて、より大きな成果を生み出す貴重な機会となります。

私が特に重要だと感じているのが「地域における知識共有」です。放射線技術の維持向上のためには、学术交流を学術大会の場だけに留めず、地域に根差した活動として継続することが重要です。当支部では、セミナーや勉強会など、会員が日常的に知識を共有できる場を設けていますので是非ともご活用ください。また放射線技術には高度な専門性が求められ、その範囲は多岐にわたります。放射線被ばくの管理、機器の精度管理、撮影手技や治療法など、技術者一人一人の役割が重要です。地域で知識を共有し、お互いに切磋琢磨することで、個人のスキル向上はもとより、地域全体の医療の質と安全性の確保につながります。会員の皆様には、積極的に近畿支部の事業にご参加いただき、最新の知識を習得し、技術の研鑽を重ねて、近畿から全国へ、さらには世界へ新しい知見を発信できるよう、共に頑張りましょう。

今年度の第68回近畿支部学術大会は、りんくう総合医療センターの中前光弘大会長のもと、11月30日（土）～12月1日（日）の2日間、森ノ宮医療大学にて開催されます。大会テーマは、「Think Different in Radiology ～固定観念を、壊せ。～」です。今回は例年とは異なり、大学のキャンパスを使用しての開催となります。特に、学生や若手会員向けのセミナーなども構成されており、成長を支援するための重要なプログラムとなっています。ですので、若手の皆様には、ぜひ学術大会にご参加いただきたいと思います。皆様のご参加を心よりお待ちしております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。